

4つの地震を重ね合わせた ＜想定する地震の最大震度の場合＞

この「地域の危険度マップ」は

○この地域の危険度マップは、想定する下記の4つの地震のうち

1. 宮城県沖地震(単独型)
2. 宮城県沖地震(連動型)
3. 活断層の地震(長町-利府断層による地震)
4. どこでも起こりうる直下の地震(マグニチュード 6.9)

100メートルメッシュ毎に、その最大となる震度となった場合に、地盤の液化化(※1)の影響を含めてどの程度の建物被害(半壊相当以上※2)が生じるかを100メートルメッシュ毎に評価し、相対的に表示したものです。

○4つの地震が同時に発生することは考えにくいですが、防災上の観点から各地点で考えられる最大の震度を表したマップです。

○「防火上の可能性として」、地域で発生する可能性のある最大の被害状況の目安を示したものであり、住民の皆様方の防災活動に役立てていただくためのものです。
全域が同時にこのような被害となることを表現しているものではありません。

○地震による被害の軽減のためには、住宅等の耐震化を図ることが大切です。そのために、地震の大きさと揺れによる建物の危険性をよく知って頂く必要があります。そこで、発生する恐れがある地震による建物被害の可能性を評価し示したのがこの「地域の危険度マップ」です。

※1 地盤の「液化化」とは

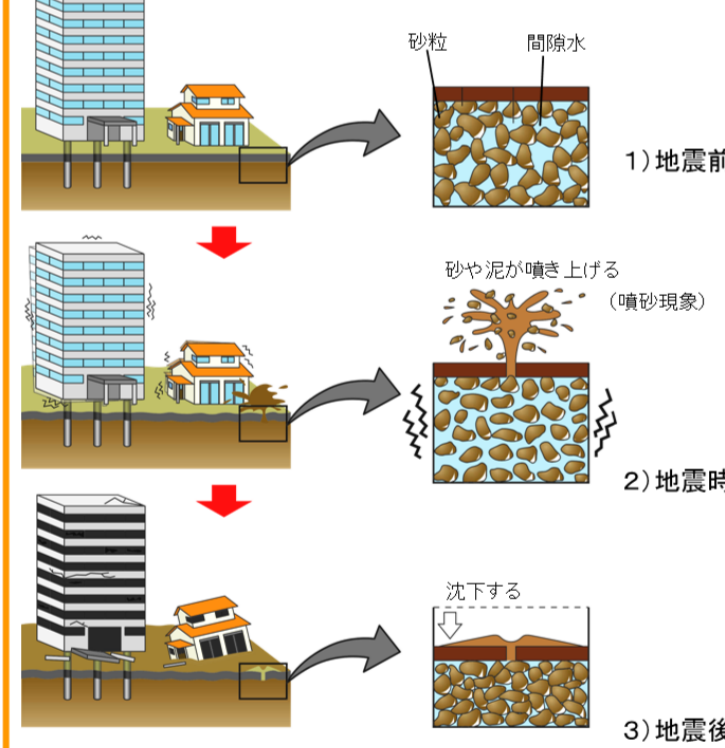
水分が多く含まれている地盤において、強い地震の揺れにより地中の土の粒の安定が崩れ、地盤が泥水のような状態になることを「液化化」といいます。

低地や埋立地などで起こりやすいとされています。場合によっては、泥水が地表に噴き出たりします。

地盤の液化化が起こると、地盤の沈下、地中のマンホールの浮き上がり、建築物の傾き・倒壊などの被害が発生することがあります。

(文部科学省(2006)「地震がわかる」から抜粋、加筆修正)

地盤の液化化のあらまし



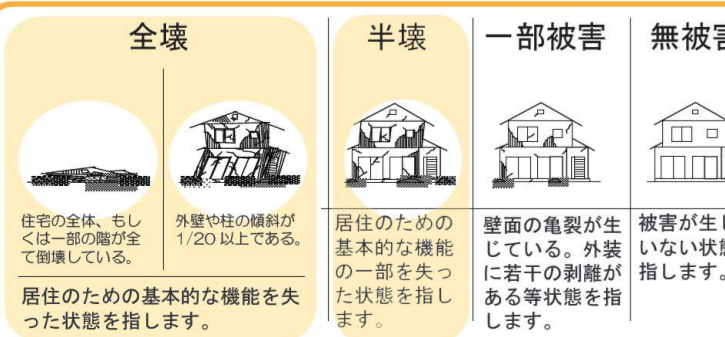
文部科学省「地震がわかる」 防災担当者参考資料(2006年)から引用

※2 「半壊相当以上」とは

このマップでは、家屋が、全壊および半壊相当となる可能性を危険度として表しています。

「半壊」とは、居住のための基本的な機能の一部を失った状態を示します。「全壊」とは、台風や地震などの自然災害による建物の被害の程度の中でも、もっとも大きく被害を受けた状態を指します。

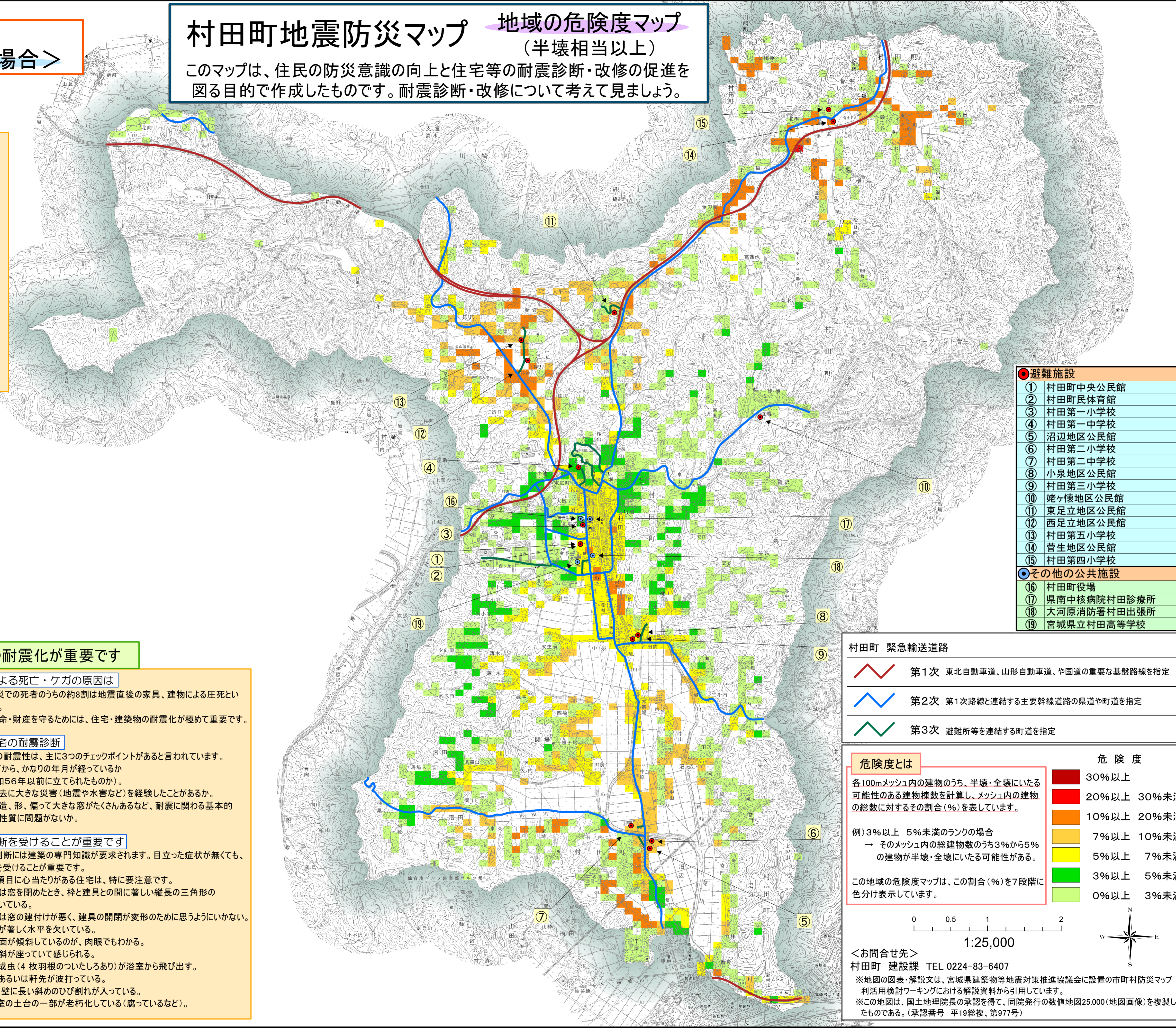
具体的には平成13年6月に国によって定められた「災害の被害認定基準」の中で「住居がその居住のための基本的機能を喪失したもの」と定義されています。



村田町地震防災マップ 地域の危険度マップ

(半壊相当以上)

このマップは、住民の防災意識の向上と住宅等の耐震診断・改修の促進を図る目的で作成したものです。耐震診断・改修について考えてみましょう。



●避難施設	
①	村田町中央公民館
②	村田町民体育館
③	村田第一小学校
④	村田第一中学校
⑤	沼辺地区公民館
⑥	村田第二小学校
⑦	村田第二中学校
⑧	小泉地区公民館
⑨	村田第三小学校
⑩	姥ヶ懐地区公民館
⑪	東足立地区公民館
⑫	西足立地区公民館
⑬	村田第五小学校
⑭	菅生地区公民館
⑮	村田第四小学校
●その他の公共施設	
⑯	村田町役場
⑰	県南中核病院村田診療所
⑱	大河原消防署村田出張所
⑲	宮城県立村田高等学校

村田町 緊急輸送道路	
	第1次 東北自動車道、山形自動車道、や国道の重要な基盤路線を指定
	第2次 第1次路線と連結する主要幹線道路の県道や町道を指定
	第3次 避難所等を連結する町道を指定

危険度とは	危険度	
各100mメッシュ内の建物のうち、半壊・全壊にいたる可能性のある建物棟数を計算し、メッシュ内の建物の総数に対するその割合(%)を表しています。 例)3%以上 5%未満のランクの場合 → そのメッシュ内の総建物数のうち3%から5%の建物が半壊・全壊にいたる可能性がある。		30%以上
		20%以上 30%未満
		10%以上 20%未満
		7%以上 10%未満
		5%以上 7%未満
		3%以上 5%未満
		0%以上 3%未満

この地域の危険度マップは、この割合(%)を7段階に色分け表示しています。

0 0.5 1 2
1:25,000

＜お問合せ先＞
村田町 建設課 TEL 0224-83-6407

※地図の図表・解説文は、宮城県建築物等地震対策推進協議会に設置の市町村防災マップ利活用検討ワーキングにおける解説資料から引用しています。
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平19総複、第977号)

建物の耐震化が重要です

■地震による死亡・ケガの原因は
阪神大震災での死者のうちの約8割は地震直後の家具、建物による圧死といわれています。
皆さんの生命・財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

■木造住宅の耐震診断
木造住宅の耐震性は、主に3つのチェックポイントがあると言われています。
・建てられてから、かなりの年月が経っているか(特に昭和56年以前に建てられたものか)。
・住宅が過去に大きな災害(地震や水害など)を経験したことがあるか。
・住宅の構造、形、偏って大きな窓がたくさんあるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題がないか。

■耐震診断を受けることが重要です
耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症状が無くても、耐震診断を受けることが重要です。
次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。
・ドアあるいは窓を閉めたとき、枠と建具との間に著しい縦長の三角形の隙間があいている。
・ドアあるいは窓の建付けが悪く、建具の開閉が変形のために思うようにいかない。
・窓の敷居が著しく水平を欠いている。
・建物の壁面が傾斜しているのが、肉眼でもわかる。
・床面の傾斜が座っていて感じられる。
・シロアリの成虫(4枚羽根のついたしろあり)が浴室から飛び出す。
・屋根の棟あるいは軒先が波打っている。
・モルタル塗壁に長い斜めのひび割れが入っている。
・流しや浴室の土台の一部が老朽化している(腐っているなど)。